

SIMI

社会的インパクト評価イニシアチブ

Social Impact Measurement Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価を広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。

～12の目標と38のアクション～

社会的インパクト評価イニシアチブ 社会的認知WG

2017年6月29日

マカイラ株式会社

1. 社会的認知WGの2020年度目標

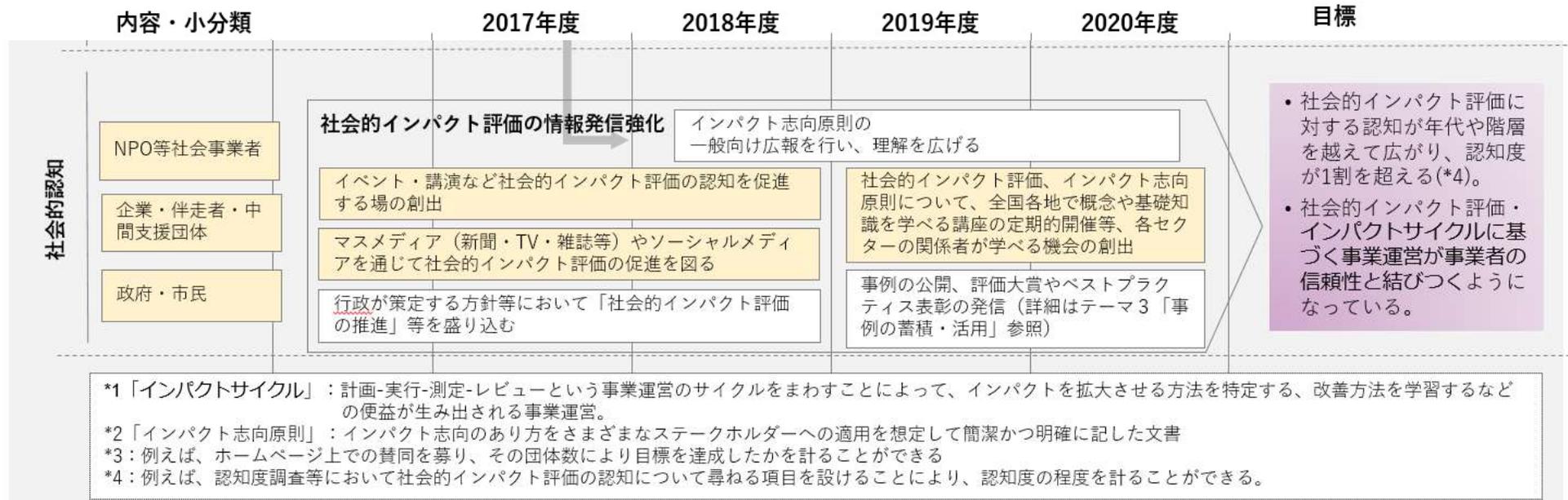
2020年目標

- 社会的インパクト評価に対する認知が年代や階層を越えて広がり、認知度が1割を超える。
- 社会的インパクト評価・インパクトサイクルに基づく事業運営が事業者の信頼性と結びつくようになっている。

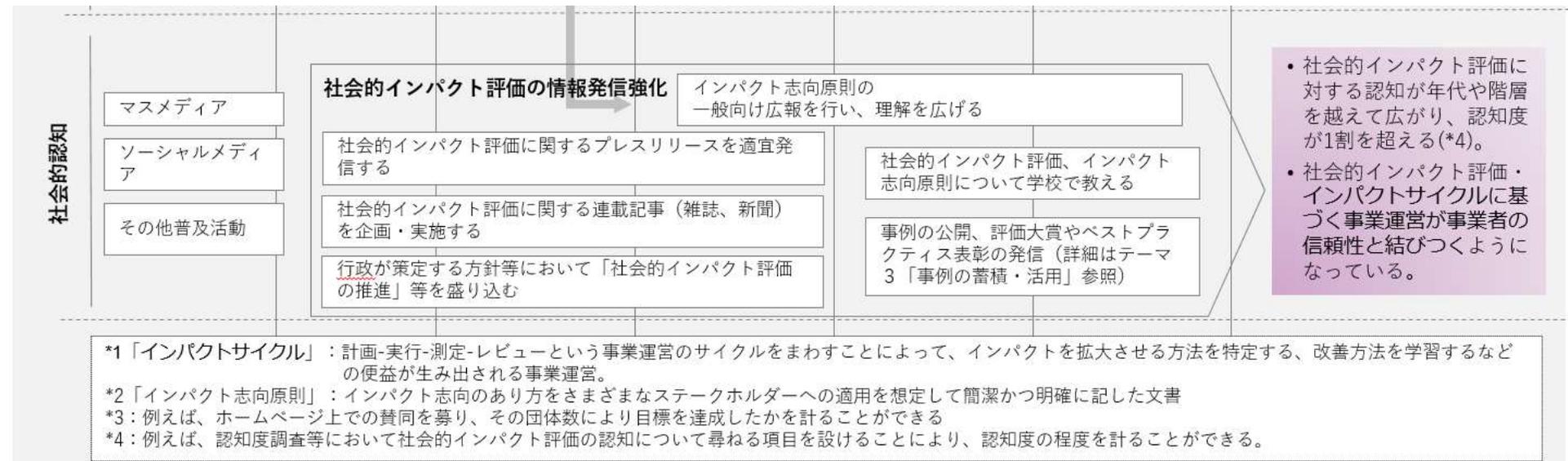
内容・小分類	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	目標
NPO等社会事業者 企業・伴走者 ・中間支援団体 政府・市民	【社会的インパクト評価の情報発信強化】				<ul style="list-style-type: none"> • 社会的インパクト評価に対する認知が年代や階層を越えて広がり、認知度が1割を超える。 • 社会的インパクト評価・インパクトサイクルに基づく事業運営が事業者の信頼性と結びつくようになっている。
			インパクト志向原則の一般向け広報を行い、理解を広げる		
	イベント・講演など社会的インパクト評価の認知を促進する場の創出		社会的インパクト評価、インパクト志向原則について、全国各地で概念や基礎知識を学べる講座の定期的開催等、各セクターの関係者が学べる機会の創出		
	マスメディア（新聞・TV・雑誌等）やソーシャルメディアを通じて社会的インパクト評価の促進を図る		事例の公開、評価大賞やベストプラクティス表彰の発信（詳細はテーマ3「事例の蓄積・活用」参照）		
		行政が策定する方針等において「社会的インパクト評価の推進」等を盛り込む			

2. ロードマップ

【新 (WG案)】



【旧 (現ロードマップ)】



3. 社会的認知WGが2017年度に目指すこと・やること

目指すこと

日本における「社会的インパクトを求める」空気感の醸成

やること

1. 社会的インパクト評価を活用するメリットの可視化

- 社会事業者・資金提供者・中間支援組織とWGが協働して、現場のメリットを可視化（業務改善、多様なステイクホルダーとの共通言語など）
- 他のWGと連携して、可視化したメリットを、認知促進に役立つ伝わりやすいメッセージに落とし込む

2. イベント・講演など社会的インパクト評価の認知を促進する場の創出

- NPO等社会事業者向け
（例）資金提供者の開催するNPO向けイベントでの講演
- 企業向け
（例）CSRシンポジウム等での講演・ブース出展、経済団体イベントでの講演

3. マスメディアやソーシャルメディアを通じた発信

- 取材獲得、関連雑誌での特集、イニシアチブFBでの発信など

4. 社会的認知WGのコアメンバー

コアメンバー

名前	所属
伊藤 佐和	ジョンソン・エンド・ジョンソン 日本法人グループ
山口 智彦	株式会社クレアン
鷺澤なつみ	公益財団法人 トヨタ財団
加藤 剛志	株式会社資生堂
松元雄基	認定特定非営利活動法人カタリバ
有井安仁	一般社団法人全国コミュニティ財団協会
◎山田泰久	NPO法人 CANPANセンター
◎金子陽子	マカイラ株式会社

◎WGリーダー